

このように夢を持って頑張れるようになった原動力はロータリーでした。もし、ロータリー米山奨学生になっていなかったら、今頃は学費、生活費を稼ぐためにバイトで精一杯で学業に専念できなかったと思います。まだ奨学生になって半年も経っていませんが、奨学生の名分で過大な愛を頂いています。カウンセラーの先生を始め、ロータリアンの方々への感謝の気持ちでいっぱいです。学校、バイト先、家というつまらない生活の繰り返しでしたが、最近は毎日が楽しみです。米山奨学生としてお寺での例会に参加させていただいたり、茶道会に参加させていただいたり、夏のお祭りに参加させていただいたり、納涼例会にも参加させていただいたりして、日本の文化についてもっと深く知ることが出来ました。また、千葉南ロータリークラブが主催した第11回国際里山会に参加させていただき、初めて草刈りを体験、自然を守っていくべきだという意識が高まってきました。そこで、パーベキューのとき四街道市の議員さんと知り合いになり、その方のお宅にホームステイに行って参りました。その方は、30年前にロータリーの奨学生としてアメリカに留学なされた事があり、ずっとロータリーに恩返ししたいという気持ちが強かったそうです。まさか30年後になって恩返しが出来るとは思わなかったとおっしゃっていました。二泊三日の短いホームステイでしたが、20年ぶりに家という暖かさを感じ、たくさんの思い出もできました。まったく泳げない私に水泳のご指導をしてくださったり、家庭料理を一緒に作らせていただいたり、コンサートに連れて行ってくださったり、市役所巡りをさせていただいたり、就職活動をしている私に様々なアドバイスをしてくださったりしました。そこで、ささやかですが恩返しという意味で私が持っているわずかな能力を生かして、ボランティアとして四街道市の中国語教室の先生をやることになりました。まだ日程などは決まっていますが、私の力不足で学生さんに迷惑をかけるのではないかと心配です。一方、日中交流のために、少しでも役に立つのではないかと自信が湧いてきます。帰りに、もし私だったら、米山奨学生という情報だけでまったく知らない人のためにそこまで出来たかと反省しました。



日本に来ることによって、失った事も少なくないですが、得たものは一生をかけても得られない宝物ばかりでした。ロータリアンの方々のご支援がなかったら、今の自分もいないと思い、心から感謝しております。松戸北ロータリークラブの皆様とのお付き合いも今回で終わりになるのではなく、続いて行けたらと思っております。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

まとまらない話で申し訳ありませんが、終わらせていただきたいと思っております。
ご清聴誠にありがとうございました。

<ニコニコ委員会：小林 弘委員長>

■地区米山記念奨学会委員長 織田信幸様：

本日は貴重なお時間を頂戴しありがとうございます。
今後とも、米山奨学事業宜しく願います。



■高橋 進：先日は大変お忙しい中 当社の創立30周年式典に多くの会員の皆様にご列席下さりまして、ありがとうございました。おかげ様にて無事に執り行うことが出来ました。



国際ロータリー第2790地区第12分区

松戸北ロータリークラブ



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1・真実かどうか
- 2・みんなに公平か
- 3・好意と友情を深めるか
- 4・みんなのためになるかどうか

第1982回 例会 2013年9月17日(火)

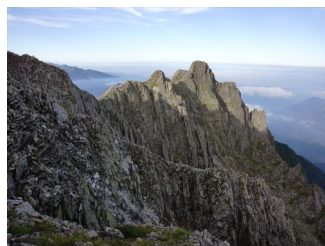
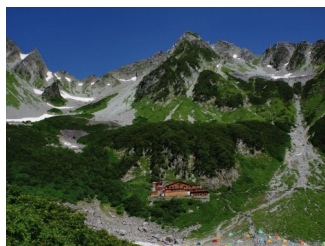
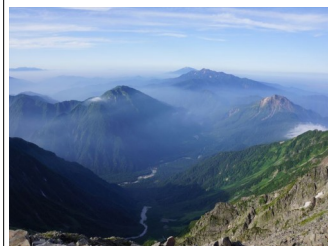
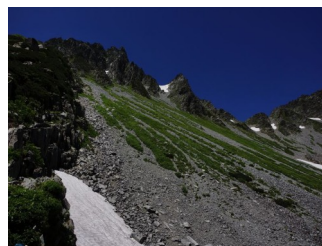
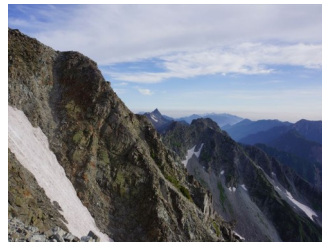
- 国際ロータリー会長 ロンD. パートン
- 第2790地区ガバナー 関口 徳雄
- 第12分区ガバナー補佐 渡辺 敏弘
- 松戸北ロータリークラブ会長 児山 守治
- 松戸北ロータリークラブ幹事 平田 洋一
- 例会日 - 毎週火曜日12:30より (第1例会18:30)
- 例会場 - 松戸市八ヶ崎1-10-6 「びわ亭」
- 事務所 - 松戸市八ヶ崎1-11-13 サンライズハイム101
- TEL/FAX - 047-711-5950 / 047-711-5910
- Web/Mail - www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp

WEEKLY REPORT

<第1982回：例会プログラム>

12:30	点鐘 ロータリーソング (我等の生業) 斉唱	児山会長
12:33	お客様紹介	崎谷会長エレクト
12:35	会食	
13:00	例会再開 会長挨拶・報告	児山会長
13:05	幹事報告	平田幹事
13:10	卓話 「自己紹介・留学先を日本にした理由」 「米山奨学生になって良かったこと」	呉 鋒花(ゴ ホウカ)様
13:25	【委員会報告】 社会奉仕委員会 社会奉仕基金発表 ニコニコ委員会 ニコニコ発表	高碓委員長 小林弘委員長
13:30	点鐘	児山会長

【写真提供：齋藤國春会員】



<会長挨拶：児山守治会長>



皆さん こんにちは。

台風18号の被害は無かったですでしょうか？少し北西にそれてくれました。この地域は最小限の被害のようです。

暑さ寒さも彼岸までと申しますが9月20日が彼岸であります。例年ですとこの日以降天候が安定してまいります。

さてマックス・ウェバー (Max Weber) (1864~1920) (大正・明治) はドイツの社会学者でカール・マルクスと並ぶヨーロッパの卓越した思想家として知られています。1904年(明37)に発表した「プロテスタンチズムの倫理と資本主義の精神」は不朽の名著として現在も広く読まれているところです。この論文で世界の五大宗教 儒教 ヒンドゥ教 仏教 キリスト教 イスラム教(回教)を克明に比較研究して厳しい禁欲的職業労働により職業に専念することを教義とする考え方が労働に携わる者の心を制御しヨーロッパの中心に興った近代資本の発展の背景になったのです。当時の思想界に大きな反響を呼んだことで広く知られています。

その翌年(1905年)ポール・ハリスがロータリーを結成しました。「全分野の職業人を対象とするロータリーの倫理訓」を国際大会で議決したのが1915年であります。

本来 職業は英語でOccupationと云っています。しかし西欧ではVocationと云うのが主流です。その意味は「神のお召し」であり「天職」「使命」となっています。ロータリーでは Vocational Service すなわち職業奉仕と云う意味で使われています。これにて挨拶とさせていただきます。

WEEKLY REPORT

<卓話:米山奨学生:呉 鋒花(ゴ ホウカ)様>



「自己紹介・留学先を日本にした理由」
「米山奨学生になって良かったこと」

松戸北ロータリークラブの皆様、こんにちは。
麗澤大学大学院日本語教育専攻二年生の呉鋒花と申します。貴重なお時間を私のために割っていただき、心より感謝しております。今、この場に立ち、卓話をさせていただくということは、皆様とのご縁の始まりだと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

簡単に自己紹介させていただきます。私は、中国の56民族の中の朝鮮民族です。29年前に、中国の一番寒いところ黒竜江省の鉄力市という小さな町で元気な泣き声とともに生まれました。一番寒い時は気温が-30℃以下に下がってきます。今考えて見ると、よくその寒さに耐えられてきたと思えました。そのお陰で寒さに耐えられる根性が育てられました。故郷は自然に恵まれている非常に綺麗な人情が溢れる町でした。

よく日本人の方に日本語を学んだきっかけは何だったのと聞かれた時、すぐには答えられなかったです。考えてみると、生まれてから日本との縁が始まったのではと思います。私は赤ちゃんの時から日常生活の中で日本語を聞きながら育てられました。外国語と認識せず、自分の母語朝鮮語の中の言葉だと思い、ずっと使ってきました。例えば、座布団や玉ねぎなどになります。おじいさんの時代から、日本語教育を義務的に受けてきたので、周りの人々はみんな簡単な日本語が出来る程度でした。

正式な日本語教育を受け始めたのは中学校の時からでした。その時初めて、自分が日常生活に使っている言葉に日本語が混ざっている事に気づき、かなり衝撃でした。一方、そのお陰で、日本語を習得する際に、語順や単語などが類似して非常に役に立ちました。日本及び日本語が大好きで、もっと日本に関して知りたくて、大学で日本語を専攻し、卒業後日本に留学することが夢でした。

ところが、大学三年生の時、大きな危機が訪ねてきました。父親が半身不随で倒れてしまい、医療費用を出すことで家族全員が精一杯でした。何度も大学を止めようと思ったが、父親に反対されました。就職活動に向かって、給料を少しでも多くもらえるために韓国企業に就職しました。初任給をもらった時はすごくうれしかったが、仕事をしているうちに憂鬱になってきました。夢を持って走ってきた自分がお金に縛られて夢を失っていくことに気がつきました。就職一年半後、両親と相談した結果、留学することになりました。未だに、父親が空港で「行ってらっしゃい」と涙を流しながら見送ってくれた姿が昨日のように覚えています。

日本に来たばかりの一週間は夢みたいでした。憧れてきた日本に自分がいるなんて実感し難いほどでした。しかし、その気持ちは十日も経たずに、直面しなくては行けない現実が訪ねてきました。いち早くバイトを始めないと生活が難しい現実でした。運よく友達の紹介で飲食店でのバイトをする事が出来ましたが、日本語があまりしゃべれなくて非常に困りました。最初はお客さんから「お冷ください」と言われても何の意味か分からなかったり、また、「取り皿ください」と言われたのに、灰皿を持っていたりしました。その時、今まで学んできた日本語は一体何だっただろうと自分を責めたり、何で学校では硬い表現ばかりではなく、日常的な言葉を教えてくれなかっただろうと学校を責めたりしたが、振りかえって見ると、その時の辛い経験があったからこそ、日本語への愛着がもっと強くなったと思います。

勉強とバイトを両立するのが辛くて何度も大学院への進学を諦めようと思っておりましたが、日本語学校の先生や家族などのお陰で困難を乗り越えて2012年から麗澤大学大学院日本語教育専攻で勉強することになりました。研究課題は日本語と朝鮮語の格助詞の対照です。日本語と朝鮮語は文法的に非常に似ているが、異なっている部分もあります。そのため、それぞれの国の言語を習得する際に、異なる部分で誤用、つまり間違いが出やすいです。異なる部分の原因を探り、より習得しやすい方法が出来たらと思っております。まだ故郷黒竜江省の朝鮮民族学校では日本語を外国語として中学校から教えているところが多いので、後輩たちが日本語を習う際に多少役に立ったらという小さな夢を持って修士論文に励んでいます。

(次ページへ)



■ロータリーの奉仕哲学「超我の奉仕」Service above self■

このServiceの意味は人のためにつくすこと。ビジネスでもServiceの心がけはシェルドンの言葉を借りれば「永続的な顧客を得る道」であり、信用を増して繁栄への道につながる。